

VR（バーチャル・リアリティ）を用いた街路樹の評価 ～どれくらいの間隔が樹にとっても人にとってもよいか～



自然・環境マネジメント研究部 環境計画研究グループ

赤澤 宏樹

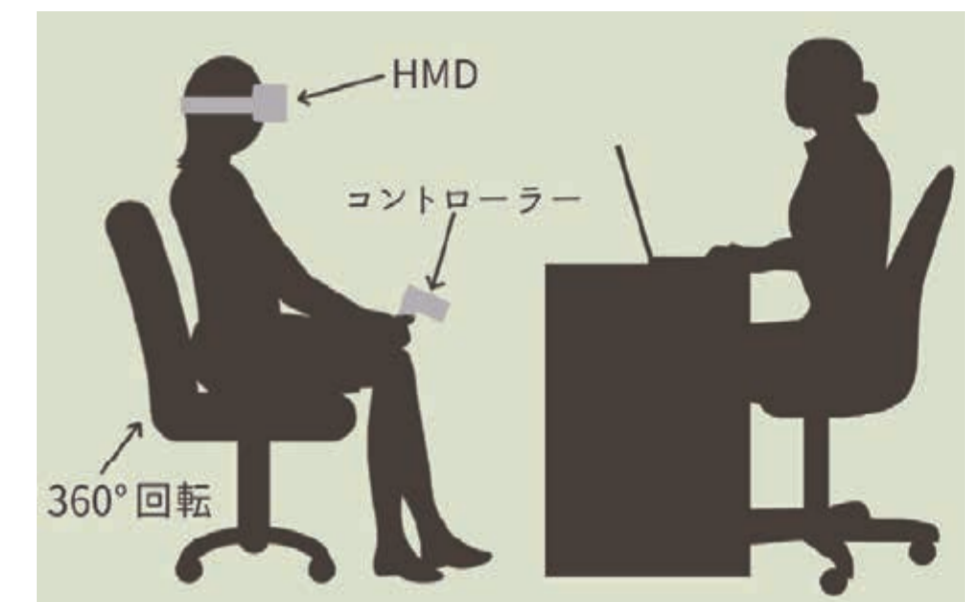
街路樹は多いほうが良いですが、植えすぎると枝が重なることで日光があたりず、お互いの生育を邪魔する環境になります。そのため、植えすぎている街路樹は、少し減らすことも必要です。ただし、減らしすぎると景観が悪くなったり、日陰が少なくなったりします。一旦減らすと、元に戻すのに長い年月がかかるので、事前に「減らしたらどうなるか」を知ることが大切です。

ゲームなどで使われる技術に、VR（バーチャル・リアリティ：仮想現実）があります。この研究では、実際にある街路樹の映像を加工して、減らしたパターンを作りました。まるで歩いているかのような体験をしてもらい、評価してもらいました。

実際の6.5m間隔の街路樹と比べて、15m以上の間隔になると「安心感」は評価が低くなりました。「緑が豊か」「見通しがよい」「連続的な」などの評価は15m間隔でもそれほど低くなりません。最適な間隔は、6.5mと15mの間にありそうで、今後細かく調べていきます。

この調査は大阪産業大学・川口研究室が行い、共同で論文化しました。

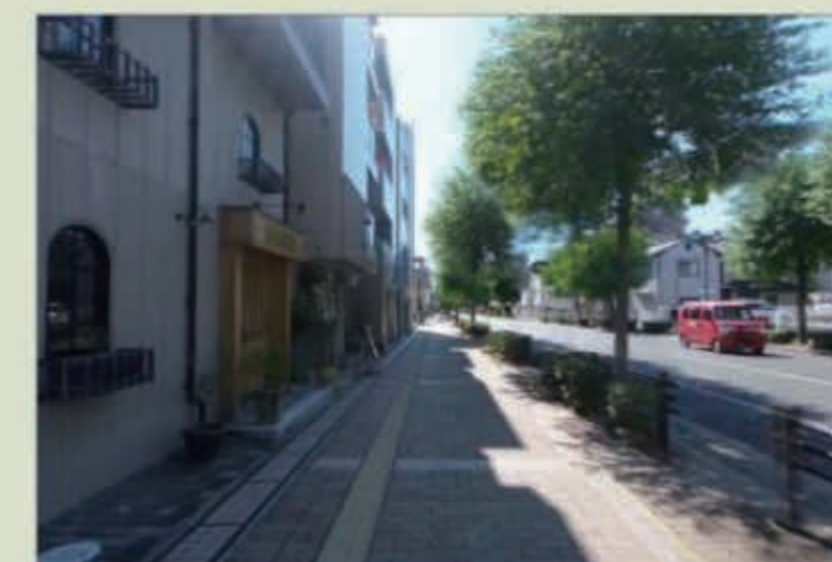
川口 将武・加我 宏之・赤澤 宏樹(2024)視点場移動型VRを用いた街路樹の景観と樹木間隔の評価、ランドスケープ研究 87(5), 477-480



パターン1(平均6.5mスパン)



パターン2(15mスパン)



パターン3(20mスパン)



パターン4(25mスパン)

パターン1を加工し作成